

安全な登山を楽しんでもらうために

山の守り人の「想い」つなぐ



「山林の魅力の後世に伝える若いガイドがこの町には必要」と話すのは、一般社団法人エコティかわねの会員で、自然体験活動を通して山の魅力を多くの人に伝えていく松本匠さん。今年も始まった登山シーズンの前に、山々を守る活動や今後の展望について伺いました。

つなげていく 山の守り人の「想い」

今年度、南アルプスの静岡県内の全ての山小屋は、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮し、閉業が決定しました。退避場所として開設しますが、登山をする際には、十分にご理解いただき、「安全な登山」を心がけるようにしてください。

川根本町消防団の井口晶彦団長は「山岳救助に備え、消防団としても日々訓練を重ねていきたい」と話しました。

7月3日、川根本町文化会館で南アルプス安全祈願祭が行われ、観光事業関係者などが玉串を奉納し、1年間の安全を祈願しました。

登山シーズン始まる

希望の「灯」つなぐ

東京五輪聖火リレー

新型コロナウイルス感染症の影響で、約1年延期となっていた東京オリンピック・パラリンピック聖火リレーが、6月23日から3日間にわたり、県内を巡りました。22市町25区間、計51、6キロメートルを274人のランナーが走り、本町出身でプロボクサーの池本夢美さんも、その一人として聖火をつなぎました。24日、高郷区で行われたケアラーズカフェに池本さんが聖火トーチを持って訪問。利用者は「会いに来てくれてうれしい」と笑顔で出迎え、池本さんとの記念撮影やおしゃべりに花を咲かせていました。



島田市内を走る池本さん

若い世代と共に山林の魅力を伝えていきたい



松本 匠さん
(下長尾区)

皆さんにはなじみが薄いであろう森・山に関わって約35年。ここまで続けてきたのは、森や山の魅力を一人でも多くの方に体感してもらいたいという気持ち、そしてそれが地域力の向上につながると考えているからです。

私が主に携わったのは、森林管理署主導で行った、光岩展望所へ向かう奥寸又自然観察会や森林ウォーク、エコティかわねの四季折々のトレッキング、南アルプスファンクラブの点検整備登山などです。川根本町には南アルプス最南、自然が造り出した天空の大庭園である光岳や、その南西に広がる本州唯一の原生自

然環境保全地域、私が個人的によく訪れた大間川周辺の山々や丸盆岳、ウツナシ峠縦走コースがあります。また、手軽に親しめる山犬段をはじめ、大札山や沢口山、智者山、天狗石山といったまさに日本の、地球の宝ともいえる山々があります。

これからも森を理解してもらう活動はますます大切になるでしょう。山・森を安全に、理解・体感していただくためにはガイドの存在が欠かせません。ガイドをなりわいとして取り組める体制、組織の充実が必要です。この町が、ひとりでも多く若い専門ガイドが住む町になっていくことが私の夢です。

挑戦しようという「想い」が夢につながる

私は川根本町が大好きで、この町で育ったからこそ今の自分があると思っています。川根本町は小さな町ですが、自分の努力次第で世界に羽ばたく人間になれるということ、経験を通して皆さんに伝えたいと思っていました。私はオリンピック選手ではありませんが、アスリートとして世界に挑戦したいという気持ちは同じだと思っています。

今回聖火ランナーを務めたことで、少しでも、町や静岡県の方々に、誰にでも夢を叶える力があるということを感じてほしいと思っています。



池本 夢美さん(平栗区出身)



(上) 静岡市で行われたセレモニー。聖火点灯の瞬間(下) 長嶋志まさん「会えてうれしい」と笑顔で聖火トーチを握る